

2022年6月18日(土)

# 楽しい俳句教室③

2022年度俳句教室の3回目です。6月の中旬は梅雨の時期なので、雨が降ることが多くなります。晴れても湿度が高く、不快に感じるものですが、この時期ならではの自然はたくさんあり、題材を探して園内を歩きました。



始めはいつものように、講師の兼久ちわき先生による話です。内容はこの時期らしく「梅雨」でした。梅雨の期間は長く、その間にも様々な表情がありますが、梅雨らしいというのは、湿気を多く含んだ空気のことです、これを俳句で表現することが大切だと学びました。

## ★ 吟行 ★



## ★ 観察できた自然 ★



頬白(ほおしろ)



赤手蟹(あかてがに)



糸蜻蛉(いととんぼ)



楊桃(やまもも)の実



振花(ねじばな)の花



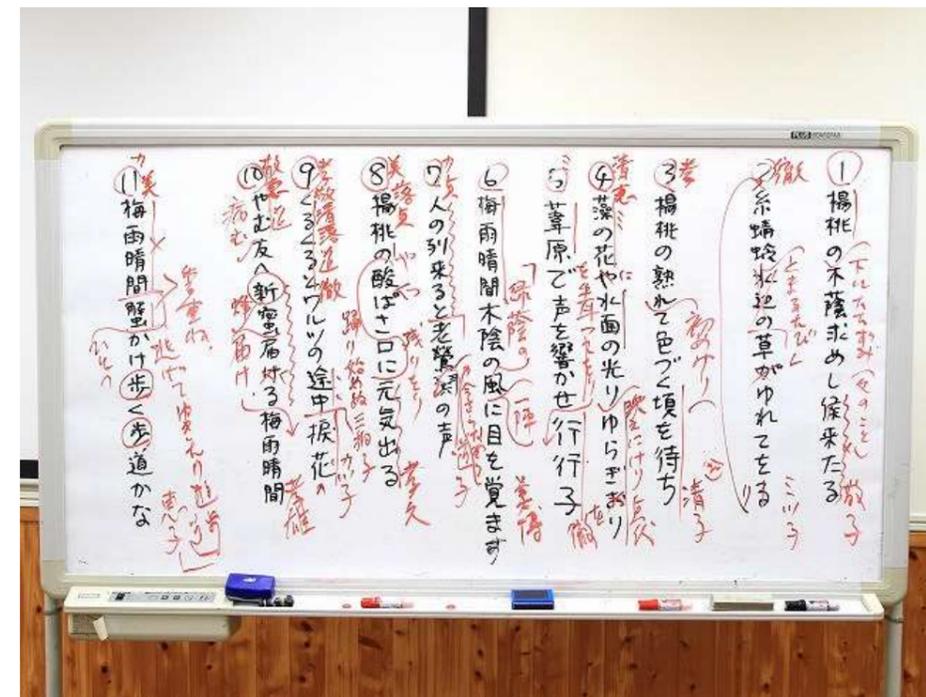
睡蓮(すいれん)の花

野外は晴れて蒸し暑い梅雨晴れ。アカテガニやネジバナなど、この時期らしい雨が似合う動植物が観察できました。トンボはそのままと秋の季語ですが、イトトンボは夏の季語になります。



ビクターセンターに戻ると俳句作りです。冷房が効いた部屋が心地良く感じました。頭を十分ひねった後は、先生の添削の時間。納得のご意見をいただきます。

## ★ 今月の作品 ★



みなさん今年度で3年目ということで、「余計な言葉は省く」「句で全てを表現せずに、読者の想像に任せる」など、先生の要求は高くなっていますが、みなさんのレベルが上がっているからこそ。先生も納得の作品を目指してがんばりましょう。